

喜多方市立山都小学校 タグラグビー実施案

低学年案

○日時 平成25年12月1日(月) 5校時 ~ 6回

○対象 1年 20人

○鬼遊びからタグラグビーへ

今回は、タグラグビーへのつながりを意識した鬼遊びという視点で授業を構成します。タグラグビーのボールを持って自由に走り、それを相手が追いかけるという動きは、鬼遊びの「走りながら逃げる一追う」という動きととても似ています。鬼遊びに夢中になる中で自然とタグラグビーにつながる技能を身につけ、タグラグビーへの学習に抵抗なく入っていくことができます。

○授業の実際

低学年を想定して、単元のねらいは下記のとおりです。

- (1) 相手をうまくかわしたり、つかまえたりして楽しく鬼遊びができる。
- (2) 相手にかつための作戦を立てて、協力して鬼遊びができる。
- (3) ルールを守って仲良く鬼遊びを行い、勝敗をすなおに認めることができる。

◆単元計画

時	1	2	3	4	5	6
ねらい	ねらい1 簡単なルールを決め、鬼遊びを楽しむ			ねらい2 相手に勝つための作戦を考えながら鬼遊びを楽しむ		
学習活動	○ タグのつけ方や取り方 1 ウォーミングアップ 2 タグ取り鬼をして遊ぶ ・個人対抗→タグの色別 ・仲間分けゲーム ・2人組 ・チーム対抗タグ取り 3 宝とり鬼をして遊ぶ ・ロブザネスト ・チーム対抗宝取り 3 学習のまとめと反省			1 宝とり鬼をして遊ぶ 2 じんとり鬼をして遊ぶ 3 宝運び鬼をして遊ぶ 4 学習のまとめと反省		

喜多方市立山都小学校 タグラグビー実施案 中学年案

○日時 平成25年12月6日(金) 3校時

○対象 3年生 18人

○タグラグビーの魅力

タグラグビーはボールを使った鬼ごっこといえますが、前方へのパスができないといったラグビー特有のルールが特異なだけで、ボールを持ったら走る。守るときはタグを取るといったルールが単純であることを理解させる。子どもの実態に応じてルールを工夫することを楽しめるようにします。

○授業の実際

◆単元計画

時	1	2	3	4	5	6
ねらい	ねらい1 今できる動き方でタグラグビーを楽しもう			ねらい2 工夫した動き方を加えて、みんなで攻めたり守ったりしてタグラグビーを楽しもう		
学習活動	<p>○タグのつけ方や取り方</p> <p>1 準備運動 タグ取り鬼 円陣パス 金魚のふん</p> <p>2 グルーピングゲーム 3面 (個人とグループのめあて)</p> <p>3 進め方とルールについて ボールを持ったら前に進む パスをしたら後ろへまわる</p> <p>4 ゲームをする</p> <p>5 作戦タイム</p> <p>6 ゲームをする</p> <p>7 反省</p>			<p>1 準備運動</p> <p>2 めあてと工夫した動きの確認</p> <p>3 作戦の提示</p> <p>4 ゲーム1</p> <p>5 ゲーム2</p> <p>6 振り返り</p>		

タグラグビーの授業作りについて

喜多方市立山都小学校長 紺野宗作

○低学年では・・・「タグとり鬼ごっこを楽しもう」

子どもたちは鬼ごっこが大好き。鬼遊びは、スピードをコントロールしたり、急な方向転換をしたりする動きが要求されます。鬼が相手を追い込んでいくための簡単な作戦も考え実行する必要が生じます。これらの経験は、すべてのボールゲームの基礎となる動き方や学び方となります。この鬼遊びの運動特性を活用し、低学年ではタグラグビーのゲームを行うよりも、タグラグビーに発展する可能性のある鬼遊びを行うとよいでしょう。

○中学年では・・・「ランニング中心のゲームを楽しもう」

鬼遊びで培った動きを大切にしながらタグラグビーのゲームをスタートします。前方へパスをしてはいけないというルールでボールゲームをした経験はありません。こういった運動経験を保証する準備運動を取り入れるとよいと思います。

単元前半は、クラス全員がトライすることを目標にして実践するとよいでしょう。また、ボールを抱えて自由に走ることができるという運動特性を活用し、タグを取られるまで走るように促すことで工夫した動き作りを引き出しましょう。初めはランニング中心のゲーム、その後パスを加えたゲームと発展させていきましょう。

○高学年では・・・「ルールの工夫を中心にゲームを楽しもう」

高学年になって初めてタグラグビーに取り組む学校もあるでしょう。その場合は中学年への指導が参考になると思います。学習経験があっても単元当初はタグラグビーに慣れる時間が必要です。

慣れてきたら、グループで作戦を考え、パスを駆使した連携プレイを目指します。しかし、子どもたちは作戦のバリエーションを持っていません。教師から適宜提示し、練習する時間を確保することが大切なポイントです。

ゲームの攻防が高まってきたら、ノックオンを適用したり、タグを取られる回数によって攻撃を制限したりするなどルールを実態に合わせてルールを難しくし、タグラグビーの楽しさをさらに味わえるようにしましょう。

小学校の体育学習における「タグ・ラグビー」の可能性

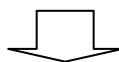
はじめに

なぜ、タグラグビーは、学習指導要領に例示されたのか？

1 ボールゲームの授業をめぐる一つの問題

(今まで)

低学年・・・ゲーム領域	ボールゲーム
中学年・・・ゲーム領域	ポートボール ラインサッカー ハンドベースボール
高学年・・・ボール運動	バスケット サッカー ソフトボール ソフトバレー



ゲームに参加できない子の出現⇒⇒⇒運動嫌いへ

- ・運動ができない子の増加（体力低下）
- ・運動する子としない子の二極化
- ・埋め難い 個人差・男女差

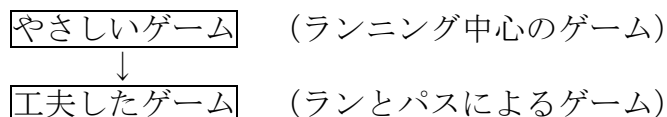
- 2 ボールゲーム分類論から見たカリキュラム検討
 攻守混合系・・・投補ゴール型 蹴補ゴール型 陣取ゴール型 ⇒ ゴール型
 攻守分離型・・・集団ねっと型 対人ネット型 ⇒ ネット型
 攻守交代型・・・ベースボール型 ⇒ ベースボール型

- 第3学年及び第4学年の「ゲーム」として 「ゴール型ゲーム」
 タグラグビーやフラッグフットボールを基にした易しいゲーム
- 第5学年及び第6学年の「ボール運動」として 「ゴール型ゲーム」
 バスケットボール及びサッカーに替えて、それぞれの型に応じたハンドボールなどのほかのボール運動を指導できる。
 例示 タグラグビー フラッグフットボール

- 3 タグラグビーの魅力
 ボールゲームの授業で、男女差もなく、運動能力差も埋める、しかも運動量が多い、もうすこし易しいゲームはないだろうか・・・？

- ① どの子も「今持っている力で楽しむ」やさしい学習
 攻め（パスは後ろ後ろへと回ってくる）→ボールを持ったら走るだけ→広いゴール
 守り（相手を追いかけてタグをとる）→だれでも相手を止められる
- ② 豊かな運動量をもたらされる学習
 攻め（仲間を追って走る 走る）
 守り（ボールを持つ相手を追って 走る 走る）
 ＊運動が得意な男子のサッカーの心拍数と運動が不得意な女子のタグラグビーの心拍数がほぼ同じ
- ③ 個人差や男女差が顕在化しにくい学習
 多くの子どもが未習のタグラグビースタートラインが一緒
 運動が苦手な子も参加しやすいやさしいゲーム

- 4 タグラグビーの授業作りのポイント



（段階的な指導）
 個人プレイ主体→簡単な守り方→チームでの攻撃→組織的な守り→ランとパス攻撃

イギリス発祥のスポーツ（習慣法）

- *自分たちが楽しむためにルールを工夫する。ルールの工夫そのものを楽しむ。
 - ・人数とボール
 - ・タグの回数
 - ・オフサイドの取り方

- 5 最後に
 小学校期には多様な運動経験が必要
 オリンピックのメダリスト